

創刊号
2017年4月
発行

がん診療 あさひ

～がんと診断されたり、治療を受けるときに、役立つ情報をまとめました～



(緩和ケアチームメンバー)

緩和ケアチーム外来

当院の外来を通院中、治療中の辛い症状でお困りのがん患者さんを対象に、症状を和らげるための薬剤の調整や日常生活でお困りのことについて伺い、希望する生活に近づけるための外来です。例えば「痛みが辛くて…」 「身の回りのことをするのが辛い」「気持ちが辛い」「眠れない」など、治療前から生じる問題に、緩和ケアを専門とする医師や看護師が対応します。また、患者さん・ご家族の日常生活をサポートします。

「医療従事者に体の苦痛やこころの辛さを話すことが、緩和ケアを受ける大事な1歩」

まずは主治医に相談しましょう。

(がん性疼痛看護認定看護師 石毛)

当院は、「地域がん診療連携拠点病院」に指定されています。



地方独立行政法人
総合病院 国保旭中央病院

〒289-2511 千葉県旭市イの1326 TEL.0479-63-8111(代) FAX.0479-63-8580
www.hospital.asahi.chiba.jp

緩和ケアチーム について

「がん」が発症し、当院にて「検査」を受け、「がん」と診断される際から、「不安」や「心配事」などが出てきます。

また、手術や化学療法、放射線治療など、がん治療を受けている際にも、治療や「がん」に伴う「痛み」などの身体的な苦痛が加わることがあります。

「痛み」の程度によっては、「医療用麻薬」などの提供を適切に受けることによって、苦痛が和らぎ、「治療」を受けやすくなります。

身体的な苦痛や精神・心理的な苦痛の他にも、療養費や生活費などの経済的な苦痛、仕事ができなくなったことによる社会的な苦痛、自分の生存が危うくなったときに生じるスピリチュアルな苦痛があり、そのことに対処するために、当院には「緩和ケアチーム」があります。

「緩和ケアチーム」には、緩和ケア科医師、精神科医師、外科系医師、心理療法士、緩和ケア認定看護師、化学療法認定看護師、緩和ケア専従薬剤師、理学療法士、栄養士、ソーシャルワーカーなどのメンバーが加わっています。

「緩和ケアチーム」は、「がん」と「診断」される時期、「治療」を受けている時期から皆さんに関わることによって、苦痛をできるだけ緩和することを目指しています。

心配なこと、痛みなどの苦痛について相談したいことがありましたら、「緩和ケアチーム」に、ご相談ください。お待ちしております。

「緩和ケアチーム」の主な構成



緩和ケアセンター について



2016年4月から、当院に「緩和ケアセンター」が設置されました。

主にがん患者さんの検査、診断、治療がなされる早期から、緩和ケアセンターの「緩和ケアチーム」が関わることにより、がんの告知に伴う不安やがんによる痛みなどの苦痛を早期から緩和することができるように、サポートしています。

がんが進行し、次第にがん性疼痛などの苦痛が増し、がんによる衰弱のため自宅での療養が困難になれば、緩和ケアセンターの「緩和ケア病棟」での療養が勧められます。

「緩和ケア病棟」では、専従の医師・看護師が毎朝のカンファレンスと回診を通して、患者さんの日々変化するがん性疼痛などの身体的苦痛や不眠、不安、焦燥感などの精神的、心理的な苦痛を捉え、それを和らげています。また看病を続けているご家族へのケアも提供しています。

介護浴槽が設置されており、患者さんは久しぶりに入浴できたと喜んでいきます。談話室もあり、お茶会などを催しています。患者さんやご家族にホッとくつろいで頂けるようにしています。

また、自宅への外出や外泊をサポートしていますし、症状が緩和され、自宅への退院や自宅近くの施設への転院等を実現している方もおられます。

病状が進行し、いよいよ癌末期となれば、ご家族による看取りが可能です。

このように、「緩和ケアセンター」には、「緩和ケアチーム」と「緩和ケア病棟」があり、お互いに連携しています。

「緩和ケアセンター」を有効に活用していただけますように願っています。

(緩和ケア科 小早川)

がん相談支援センター

「がん」について、お気軽にご相談ください

「がん診療連携拠点病院」には「がん患者相談支援センター」が設置されています。

当院では、社会福祉士が相談に応じます。必要に応じて、医師・看護師・薬剤師・栄養士等と連絡を取って、お話を伺います。たとえば…

- がんと言われて頭が真っ白になってしまい、誰かに話を聞いてほしい。
 - セカンドオピニオンの方法を知りたいです。
 - どのように治療に取り組んだらよいでしょうか。
 - がんの治療ってどのくらいお金がかかりますか？
 - しごとを続けるのは無理でしょうか？
 - 介護が必要になったらどうしますか？
- などのご相談がありました。



がん相談支援センター

2号館1階 医療連携福祉相談室
時間/月～金 8:30～17:15

相談は無料です。

※なるべく予約して頂くことをお勧めしています。

がん患者サロン 乳がん患者サロン 開催について

がん患者サロン

毎月第3月曜日
14:00～16:00
参加費 300円
事前申し込みは不要です。

乳がん患者サロン

毎月第3木曜日
14:00～16:00
参加費 300円
事前申し込みは不要です。

最近、がんが増えたと思われていますが、そうではありません。

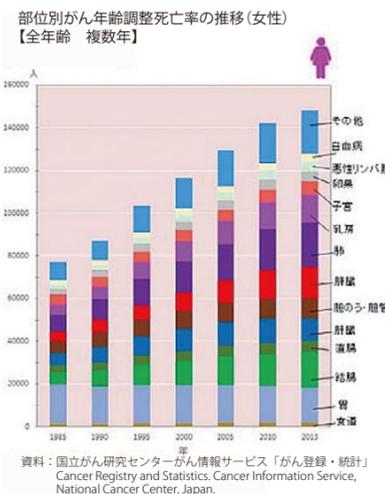
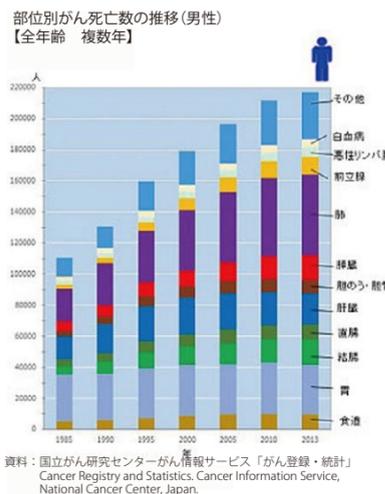
—よい選択のために—



- ① 癌は近年増えている？
- ② 癌は10年以上かけてできる
- ③ 癌は治療すべきか？

一般の方も見やすく信頼できる全国がん登録による統計(国立がん研究センター がん情報サービス ganjoho.jp)を見ながら解説しましょう。まず一年間に癌で死亡する人を見ると増えています。

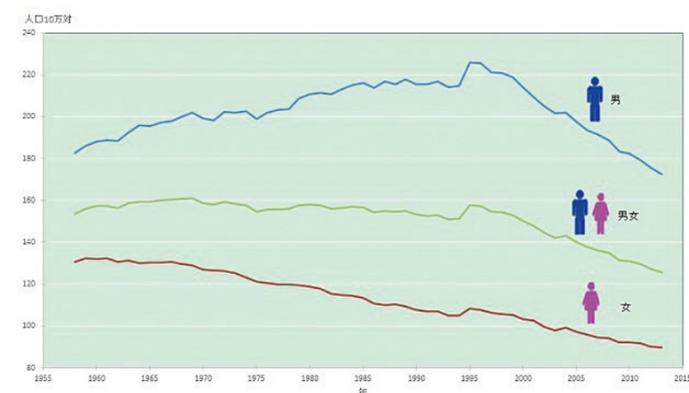
<http://ganjoho.jp/public/index.html>



「昔はよかった」、「日本は危険」、「環境、食生活や癌治療が悪いのでは?」と思いますか?

昔と今とでは高齢者の割合が違うため年齢調整という作業が必要です。小さい子がいる家族世帯が多い都会のA市と高齢者が多い田舎のB市を比べてB市の癌が多いのは驚くことではないでしょう。年齢調整をすると男性は1995年頃から、女性は1960年頃から死亡率は下がっています。

部位別がん死亡数の推移(全部位・性別)
【1958年～2013年】



つまり癌が増えたのは結核や脳血管疾患での死亡が減って長生きだからであり、昔より癌で死にやすくなっているということはありません。

癌は1個の異常な細胞から始まります。特殊な癌もありますがこれが2倍、4倍と増えて生体内で1cm(10億個)の癌になるのに10年以上が必要と推定されています。

診断された癌が自然に治ることは稀です。しかし癌を見たら必ず治療するわけでもありません。進んだ時にどんな辛い思いをするか、検査や治療の負担はどれくらいで効果はどれくらいか、**さまざまな事項を相談して決めるのです。**

- ① 癌は近年高齢化で増えているが、癌で死ぬ人は減っている
- ② 癌は10年以上かけてできる
- ③ 癌を治療するかしないかはさまざまな事項を検討して決める

この知識は自分や家族、知人が癌にかかったときによりよい選択をする助けとなるでしょう。

(放射線治療科 太田)

当院の治療や医療のご紹介

多面的な治療で、患者さんを支えます

手術療法について

手術療法とは、がんを切り取って治す治療法です。がんを完全に治すための治療法として、ほとんどの場合手術療法が選択されます。

手術はからだに負担のかかる治療法ですので、これをなるべく軽くするためにいろいろな手術が開発されています。胃カメラなどの内視鏡による手術では、皮膚にメスを入れることなくがんを切除できます。また、腹腔鏡や胸腔鏡による手術では、従来の開腹や開胸による手術に比べてずっと小さな傷でがんを切除することができます。

現代の手術療法は、チーム医療として行われます。たとえば、手術に加えて抗がん剤や放射線を併用する場合は、外科・内科・放射線科が一緒に治療にあたります。また、術前の準備段階から術後の回復期まで、外科医・麻酔医・看護師・薬剤師・理学療法士など多くの職種の人たちがチームとして診療に加わり、患者さんが安全に手術療法を受けられるような体制が作られています。

(外科 野村)

患者さん



緩和ケアについて

これまでの「ターミナル(がんの終末期)ケア」のことではありません。

- 「緩和ケア」とは、がんと診断されたときから、患者さんが感じる体と心の苦痛をやわらげるケアのことで、より早期の段階から必要とされるものです。
- 「緩和ケア」により、患者さんの生活の質を向上させ、生きる力を支えます。そして、死が訪れるまで、患者さんが自分らしく生きていけるよう支えていきます。
- 「緩和ケア」では、患者さんの苦痛を取り除く治療(鎮痛薬などの薬の投与)や心のケアが、専門スタッフ達(緩和ケアチーム:別記)によって行われます。
- 「緩和ケア」は、患者さんを支えるご家族の心のケア(治療中から死別後まで)も行います。

(緩和ケア科 谷本)

放射線治療について

治療の特徴

X線や放射性物質が出すビームを利用して、手の届かないところに治療ができるという特徴があります。各診療科、画像診断部門と協力して問題を見つけ、解決を目指しています。

- 外照射
 - 一般的な外照射(ほぼ全身が対象で乳房温存療法、食道癌、骨転移など)
 - 高精度治療 IMRT 強度変調放射線治療(前立腺癌など)、定位放射線治療(脳腫瘍、肺癌、肝臓癌など)
- 腔内照射(子宮癌)
- 内用療法 ソーフィゴ注(骨転移)、ゼヴァリン注(悪性リンパ腫)

(放射線治療科 太田)

化学療法センターでの治療について

「手術」「放射線治療」と並んで、がん治療の3本柱のひとつに「化学療法」があります。近年、新しい抗がん剤の開発や副作用を軽減する支持療法の進歩などにより、治療効果が向上し、標準化された化学療法が適用されるようになりました。このように**有効な化学療法を多くの患者さんが受けるようになり、QOL(生活の質)が重視されるようになったことから化学療法は外来治療が中心となり、安全で質の高い医療の提供の場として化学療法センターが設立され**全科の治療がここに集約されています。化学療法センターの病床数は40床(リクライニング8、ベッド32)あり、スタッフはがん化学療法看護認定看護師1名を含む看護師7名と医師1名が常駐しています。1人の患者さんを包括的に支えていく上での治療やサポートの質を高めるために医師、看護師、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、リハビリ療法士によるチーム診療を行ない、すべての患者さんに満足していただけるよう心がけています。

(化学療法科 中村)